

スクープ 外務省に新疑惑

大使館から大量の美術品が 消えていた!?

2016万円の川崎春彦「早春富士」も



「赤ちゃんポスト」 蓮田太二氏を直撃
新シリーズ 「地球破滅 あと5分」

椎名誠の写真エッセイ

南風ふらふら日記⑤
どうだ、まいったか、の沖縄すば色
とりどり。左上からカレー、おぼろ豆
腐、ポークたまご、アーサー、イカスミ、
ソーキである。みんなうまい。

スクープ

外務省に新疑惑

日本大使館から

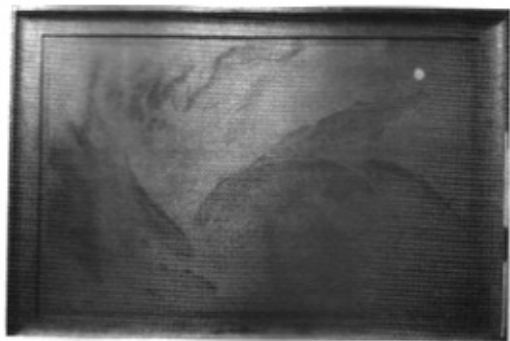
名画や陶磁器など

4年半で

川崎春彦「早春富士」2016万円
平松礼二「路・想春」882万円
福田恵一 画題不明 630万円(いずれも推定額)

98点が消えた!?

在仏日本国大使館で
“廃棄処分”された海
祖古の日本画「鯉」。



これはいったいどういふことなのか。

海外にある日本国大使館など在外公館の玄関や応接室、

大使執務室などに飾るために購入し、

日本文化の魅力を伝える役割を果たしている美術品が、

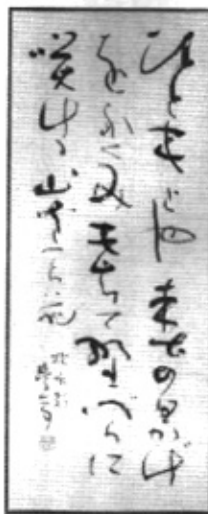
ある日忽然と消えて、いることが本誌の取材で明らかになった。

日本画や洋画、版画、そして陶磁器など、

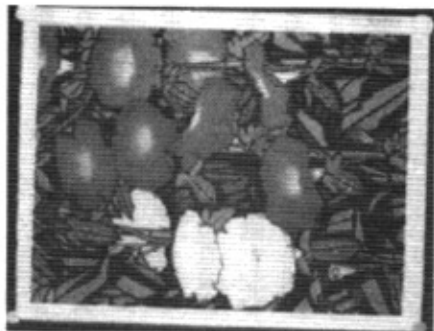
姿を消した美術品は4年半で98点にもなる。

北健一

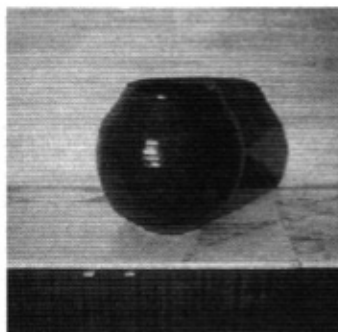
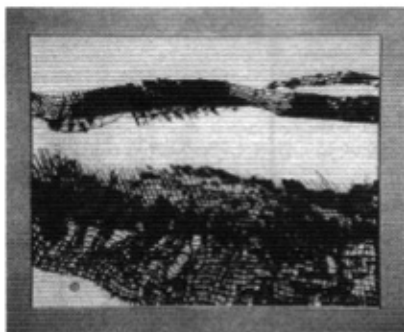
在仏日本国大使館で
“廃棄処分”された金子
鷗平の「山ざくら(若
山牧水歌)」。



(左から) 在ベトナム日本国大使館で“廃棄処分”された橋本興家の版画「朝顔」、在米日本国大使館で“廃棄処分”された伊東深水の日本画「春暖」(複製)、在ニューヨーク日本国総領事館で“廃棄処分”されたOno Tadashiの洋画「フィレンツェの庭」。



(左から) 在仏日本国大使館で「廃棄処分」された勅使河原蒼風の彫刻「あまつひ やくも」、同じく宇野三吾の陶磁器「碧輪大壺」、在米日本国大使館で「廃棄処分」された野崎ふしみのマット画「蘇る」。外務省は在米日本国大使館で「蘇る」など5点の美術品を廃棄したのは、ハリケーンで水に浸かってしまったためと説明している。



摩訶不思議な事態がわかったいきさつはこうだ。

二〇〇二年八月、前田雄吉衆議院議員(民主党)が、税金の無駄遣いをチェックするため、在外公館に配置されている美術品リストを資料要求によって外務省から入手した。

一方、本誌は、行政機関の保有する情報の公開に関する法律(情報公開法)にもとづいて外務省に最新の美術品リストの開示を請求、今年一月に開示を受けた。

二つのリストを比較したところ、三六の在外公館で、〇二年リストには記載されている美術品が最新リストには記載されていないという異同が確認された。四年半前には飾っていたものが、今はないのである。

寄贈されたものも一部あるとはいえ、多くは多額の税金を払って購入された貴重な国有資産であることは言うまでもない。在米大使館には、時価一億円を超えるとみられる横山大観の絵の現物まである。

大観の絵は幸い最新リストにも載っている。だが、在パラグアイ大使館が七点、在ベルギー大使館、在インドネシア大使館、在アトランタ総領事館、在グアテマラ大使館、在ラスパルマス駐在官事務所は各六点など、多数の美術品が消えている。在外公館も少なくない(一〇一―一〇一―一ページの表参照)。

これらの美術品はいくらで購入さ

れたのか。価格の推定を試みたところ、消えた美術品には驚くほど高価な作品があることがわかった。

推定額で1点 2000万円超も

価格の推定は、日本画については「美術家名鑑」(二〇〇六年刊、美術倶楽部)記載の「一〇号の評価基準」をもとに号数(絵の大きさ)から算出するなど、同名鑑にもとづいた。ただし、本誌が入手した、複数の美術品「予定価格表(外務省大臣官房会計課長の印が押された公文書)によれば、価格は「一号当たりの基準価格×号数×四〇%×一・〇五」という式で算出されているので、「名鑑」から算出される価格に四〇%を乗じ、消費税五%を加えた。

すると、最高額と思われるのは、心を穏やかにさせる風景画で知られる著名画家・川崎春彦の日本画「早春富士」(一二〇号、在サンフランシスコ総領事館)で推定二〇一六万円。二位が、新しい挑戦を続ける人気作家、平松礼二の日本画「路・想春」(五〇号、在シアトル総領事館)で、推定八八二万円。三位が故・福田恵一の画題不明の日本画(二五〇号、在ボストン総領事館)で推定六三〇万円の順で、一〇〇万円以上のものが二点にのぼる。陶磁器が一点で、あとはすべて日本画だ。

また、NPO法人「情報公開市民

センター」(理事長 高橋利明弁護士)が情報公開法にもとづいて入手した美術品購入に関する外務省の決裁書にも、「木村光宏画伯の絵」が二五二万円で高島屋東京店から購入され、別の決裁書には「新進気鋭の日本人洋画家の石垣(定哉)画伯の作品」を日動画廊から一八九万円で購入する、とある。さらに二〇〇五年度の外務省概算要求書の明細を示す書類でも、在外公館の備品のうち絵画は「単価二〇万円」となっている。一〇〇万円を超える価格で購入された絵は相当数にのぼるのではないか。

古くなったから 捨てたという外務省

国が所有する高価な美術品が次々と消えているのはいったいなせか。

なくなった美術品を在外公館別に整理した表を示して外務省(報道課)に取材すると、紛失を全否定したうえで、要旨次のように答えた。

「これら(二〇〇二年にあったのに最新リストから消えた美術品)は、修理のために一時的に本省にて保管している、他の在外公館に配置換えを行なった、経年劣化により廃棄処分とした等の理由により、「リスト」から削除されたものです。在外公館に配置されている美術品は、各在外公館において適切に管理されています」

「適切に管理」されている美術品が、

〔消失〕とは2002年8月6日現在の美術品リストに記載されながら、最新のリストに記載がないことをいう。前田雄吉衆議院議員の質問主意書に対する07・3・16付内閣答弁書によれば、このうち在バグアイ大使館の7点は「修理のため一時的に外務本省にて保管、及び他の在外公館に配置換えを行った」、在米大使館の5点と在フランス大使館の4点は「経年劣化等の理由により廃棄処分とした」]

◆在ベトナム大使館

橋本興家 朝顔 版画

◆在タイ大使館

鈴木八郎 軸嵌線文大皿 陶磁器

◆在サンフランシスコ総領事館

川崎春彦 早春富士 日本画 120 原画

◆在ボストン総領事館

福田恵 (画題不明) 日本画 150 原画

◆在ベネズエラ大使館

横山大観 松韻涛声 日本画 複製

◆在エクアドル大使館

上出春山 九谷焼色絵小文皿 陶磁器

◆在キューバ大使館

HAGUINOYA (画題不明) 洋画 20 原画

◆在トリニダードトバゴ大使館

徳田正彦 色軸壺 陶磁器

◆在ウズベキスタン大使館

土井宏太郎 潮の舞 日本画 50 原画

◆在アルジェリア大使館

今西方哉 葡萄文染付大壺 陶磁器

◆在ガボン大使館

上瀬勝治 青白磁花文鉢 陶磁器

◆在ギニア大使館

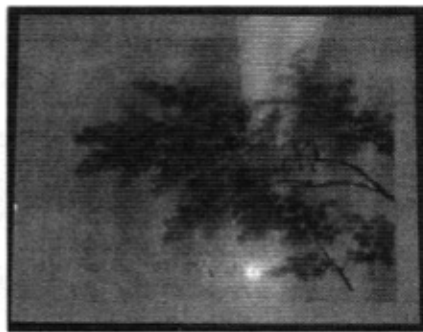
大場清仁 妙義 日本画 30 原画

◆在コンゴ(民)大使館

小林古径 芍薬 日本画 複製

◆在ミャンマー大使館

N.IDE 新橋 洋画 原画



在米日本国大使館で「廃棄処分」された横山大観の日本画「緑雨」(複製)。同大使館には大観の絵の現物もある。

捨てるしかないほど劣化するというのは、にわかには信じがたい。公立美術館の立ち上げに携わった経験もある美術評論家・村田慶之輔氏も、外務省の釈明に疑問を呈する。「たしかに日本画はデリケートなもので管理には注意が必要だが、冷房の効いた大使館のなかでは湿気や

汚れはそんなにないですよ。やっぱり、何らかの「人的事故」ではないか。大使館にあるべき国の資産が欠けているとしたら、本当におかしいと思います」

在外公館の会計は
デタラメとの指摘

美術品の作者たちは何か事情を知らないかと考え、話をきいてみた。作品が米州の在外公館から消えた、ある有名な画家は「あの絵は外務省に頼まれて描いたんですよ。事前に現場を見て。やはり大使館の玄関に作品が飾られるというのは名誉なんです。画料は払ってもらいました。修理したり破棄したりということは、全然聞いてないですね」と語った。

画家も知らない絵のゆくえ。市民の目が届かない大使館で、いったい何が起きているのか？

二〇〇一年二月から〇三年八月まで在レバノン大使館で特命全権大使を務めた天木直人氏は明かす。「私がレバノン大使になるとき、事前に大使館の備品台帳をチェックしました。すると本来あるはずの絵がない。部下に訊くと、「あの絵は買ったけど良くなかったので外して……」という。逆に、壁に掛かっているのに台帳に載っていないものもあった。安いものは記載しないなど、備品台帳の記載や管理がいかげんで、とにかく杜撰なんです」

あるはずのものがなく、ないはずのものがある。本当だとすれば、国有資産が「適切に管理」(外務省)されているとは到底いえない。

裏金づくりに携わって二〇〇一年に逮捕された元外務省課長補佐・小

林祐武氏は著書「私とキャリアが外務省を腐らせました」(講談社)で、「在外公館では大使が絶対君主のような存在なので、大使が交代するたびに、調度品や内装の変更が厳命される」とし、こんな話を暴露している。

「ひどい大使になると、気に入らない物を自分で割ってしまった人もいた。割れてしまえば「破損」である。それなら新しいものに取り替えなければならぬ」

そして「これらが問題にならないほど、在外公館の会計はデタラメなのである」と結論付けるのだ。

わざと割ってしまう大使はもちろん例外的存在だろうが、消えた陶磁器は一六点にのぼり、推定価格二七三万円という高価なものも含まれている。故・清水卯一の作品で、二〇〇二年には中国は広州の総領事館に

在外公館が所蔵する美術品「消失」リスト

「消失」点数ランキング

- 1位 7点** 在バラグアイ大使館
- 2位 6点** 在ベルギー大使館 在インドネシア大使館 在アトランタ総領事館 在グアテマラ大使館 在ラスバルマス総領事館(最新リストでは「駐在官事務所」)
- 7位 5点** 在米大使館 在ニューオーリンズ総領事館 在ケニア大使館
- 10位 4点** 在フランス大使館 在トロント総領事館 在ベレン総領事館
- 13位 3点** 在南アフリカ大使館 在広州総領事館
- 15位 2点** 在シアトル総領事館 在ニューヨーク総領事館 在パナマ大使館 在ペルー大使館 在オーストリア大使館 在韓国大使館

「消失」した美術品リスト(作者、作品名、種類、号数、その他)

◆在バラグアイ大使館

小栗潮 漢 日本画 40 原画
井上稔 華 日本画 50 原画
秋元清治 壤 日本画 50 原画
箕輪翠香 漢彩山水 日本画 原画
斉藤勉 染付木の葉花瓶 陶磁器
鈴木清 白地鉄絵文壺 陶磁器
宇野徹 (題名不明) 陶磁器

◆在ベルギー大使館

安塔蒼樹 潤 日本画 50 原画
高木義夫 静物 日本画 120
辰新春 (画題不明) 日本画
岩渕芳華 姉妹 日本画 30
佐藤美雄 はごぞり 日本画 120
福田美蘭 Pearl(パール) 洋画 150F

◆在インドネシア大使館

松本佐喜男 カオス 陶磁器
笹島喜平 飛雲富士(4) 版画
森村玲 門 版画
広長威彦 大野・伊那 版画
沢田哲郎 CRYSTAL SCAPES 版画
府川誠 暗畑 版画

◆在アトランタ総領事館

岡行 墨絵 滝 日本画 原画
岡行 墨絵 白雪 日本画 原画
景山 墨絵 山水画 日本画 原画
石済 墨絵 泳ぐ鴨 日本画 原画
(作者不明) さき1対 日本画
(作者不明) 山水画 日本画 掛軸

◆在グアテマラ大使館

川合玉堂 吹雪 日本画 複製
川合玉堂 海村 日本画 複製
小林古径 水仙 日本画 複製
横山大観 叭鳴 日本画 複製
横山大観 朝暉 日本画 複製
村岸良華 寝覚 日本画 150 原画

◆在ラスバルマス駐在官事務所

須田瑛中 銀盆に盛る 日本画 15 原画

三輪晃久 富士 日本画 30 原画
アントニオ・マルティン 風景 洋画
岡田裕 秋窓変壺 陶磁器
鈴木治 牛 青白磁 陶磁器
金屏風 6曲1双

◆在米大使館

伊東深水 春暖 日本画 複製
川合玉堂 吹雪 日本画 複製
横山大観 緑雨 日本画 複製
横山大観 曙 日本画 複製
野崎ふしみ 蘇る 和紙マット画

◆在ニューオーリンズ総領事館

遠藤桑珠 風景 日本画 25 原画
鎌倉秀雄 鯉 日本画 30 原画
岡本彌寿子 柿落葉 日本画 30 原画
小野寺玄 炭火大壺 陶磁器
斉藤清 菊 版画

◆在ケニア大使館

BAZAZ 花 洋画 12
OCHENX 踊り子 洋画 15
(作者不明) 風景 洋画 10
(作者不明) 抽象 洋画 20
(作者不明) 花 洋画 25

◆在フランス大使館

海祖古 鯉 日本画 30 原画
宇野三吾 碧軸大壺 陶磁器
金子鶴亭 山ざくら(若山牧水歌) 書
勅使河原蒼風 あまつひ やくも 彫刻

◆在トロント総領事館

川合玉堂 清流釣魚 日本画 複製
小林古径 枇杷 日本画 複製
速水御舟 朝顔 日本画 複製
横山大観 蓬莱山 日本画 複製

◆在ベレン総領事館

上永井 夕焼帆船 洋画
福沢一郎 スペイン風景 洋画
福沢一郎 スペイン風景その1 洋画

(作者不明) 草取 版画

◆在南アフリカ大使館

川合玉堂 編剣 日本画 複製
竹内栖鳳 桜に鳥 日本画 複製
橋本閑雪 桃源境 日本画 複製

◆在広州総領事館

原太楽 壺 陶磁器
岡野法世 信楽土白然軸大鉢 陶磁器
清水卯一 青瓷花瓶 陶磁器

◆在シアトル総領事館

平松礼二 路・想春 日本画 50 原画
中島康正 錦秋懸瀑 洋画 50 原画

◆在ニューヨーク総領事館

川西英 秋雑木 版画
Ono Tadashi ファレンツェの庭 その他

◆在パナマ大使館

猪原大華 梅 日本画 40 原画
龍駿介 富士 洋画 40 原画

◆在ペルー大使館

富岡鉄斎 字士壽雨 日本画
横山大観 杏 日本画

◆在オーストリア大使館

松本芳翠 新年の詩 書
浜野年宏 WORK 85-8(くみ) 版画

◆在韓国大使館

石川善一 初舞台 日本画 100 原画
服部守弘 門 日本画 40 原画

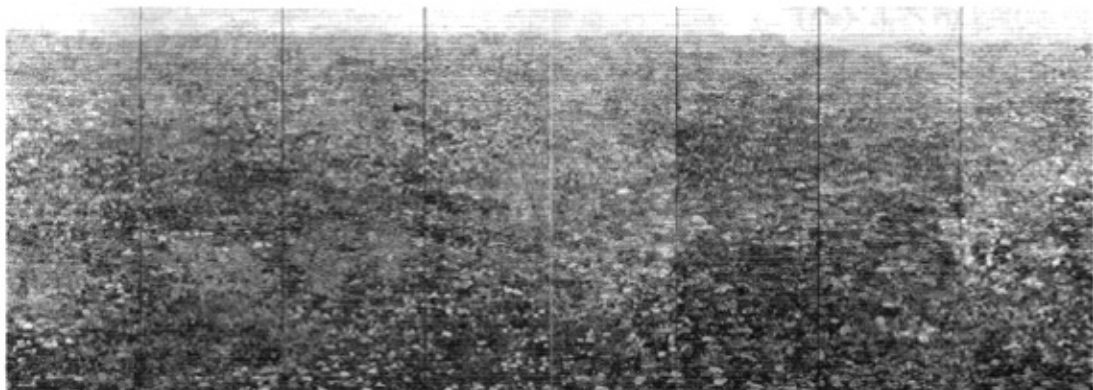
◆在サンクトペテルブルク総領事館

等楊雪舟 冬景山水 日本画 掛軸 複製

◆在ロシア大使館

アイバフスキー 海 洋画

日本画家、平松礼二の代表作の一つ「路—九月の雨」(「昭和の美術6」毎日新聞社より)。「路」は平松が1970年代からシリーズとして描いている作品。在シアトル総領事館のリストからは平松の「路・想春」(50号)が消えている。その推定価格は約882万円である。



あったものである。

「機密費」で購入 ついでに「おも

管理が杜撰でいいかげん。美術品をわざと破損してしまおう……。こんなことがあるとすれば大問題だが、在外公館の美術品をめぐる疑惑はそれだけではない。

二〇〇一年一〇月二四日、衆議院決算行政監視委員会で、民主党の木下厚議員(当時)が、外務省に関する三越本店の顧客伝票、いわばお買い物物品リストを手に質問に立った。外務省は三越本店にとってたいへんな「お得意様」だったが、顧客伝票には日本画の購入も目立った。

〇一年三月一五日 五二〇万円
三月一七日 一九二万円
という具合だ。

それをもとに、木下議員は「もし在外公館用の日本画であるとすれば、これは予算的にはどこから出るわけですか。在外公館の報償費ですか、庁費ですか」と質問した。報償費は、裏金づくりや官邸への上納疑惑が物議をかもししていた、いわゆる機密費のことで、庁費は一般予算だ。

すると杉浦正健・外務副大臣(当時)は「庁費から支出されておりません」と答弁した。だがこれは虚偽だった可能性が高い。〇一年九月に会計検査院が是正処置を要求するまで、「文化啓発用の日本画等購入経費」

は報償費から支出されていたからだ。

二〇〇〇年度的美術品等購入額は七二三万円。このほか、国内や海外で開かれるレセプション経費(〇〇年は一〇八三万円)、酒類購入経費(同一五三六万円)、国会議員などが外国訪問した際の車借り上げ代等(同一〇八三万円)、大使などが赴任する際の贈答品代(同四七二〇万円)も報償費から支出され、実態は間に包まれてきた。

そうした隠蔽構造に風穴を開けたのが、先述の情報公開市民センターだった。市民センターは二〇〇一年四月、前年二―三月に支出された報償費の使い道がわかる文書の公開を外務省に請求した。外務省が一〇六九件の文書すべてを「外交上の支障」を理由に不開示としたため、〇一年六月、国を相手に情報開示を求める訴訟を起こした。

裁判の争点は報償費の用途によって多岐にわたるが、ここでは美術品購入の詳細を示す決裁書等の開示にしばって経過をみたい。

裁判が始まった後、前述した会計検査院の処置要求を受け、外務省は美術品購入予算を報償費から庁費に移すとともに、美術品購入費に関する文書の一部を開示した。

を公開すると紹介者と外務省の関係が悪くなって「将来的に同様の方法での調達が困難になる」と主張し、全面開示はしなかった。出てきた文書は黒塗りだらけだったのだ。

それに対して東京地裁(大門区)裁判長は昨年二月二八日に言い渡した原告市民センター勝訴の判決で次のように指摘した。

「公費を用いて備品の購入をしている以上、その購入価格を明らかにすることにも『事務の適正な遂行』という観点から一定の利益を認めうる」ところであって、少なくとも、情報を秘匿して同一の取引関係を維持する利益が常にこれを上回るなどとはいえず、そのことをもって『事務の適正な遂行』に支障を及ぼすおそれがあるとは言い難い」(判例時報)一九四八号

外務省による美術品の購入は税金の使い道なのだから、その公開には、画商らの機嫌を損ねるかどうかなどといった取引の事情を超える社会的意味がある、というのだ。判決は報償費について、「外務省が説明する本来の使い道以外にも使われていた」「支出基準や運用のあいまいさに疑問が残る」と厳しく指摘したが、これは美術品購入にもあてはまる。

画期的判決をかちとった市民センターの高橋理事長は語る。「大使館に飾る絵を、なぜ機密費で買う必要があったのか。やましいこ

とがなければ公開すべきです。買うカネが不透明で、出納の管理も不十分だとすれば、不適正に使われた疑いが出てくる。たとえば、退任するとき、記念に持っていつちやうとか

「大使が私物化した」とする噂が絶えない

国有資産を外務省職員が私物化する。言うまでもなくそれはれっきとした犯罪だ。天木元大使も「いくらなんでも……。少なくとも、私は見たことがない」と言うように、できれば、そんなことはない」と信じている。だが、現に多数の美術品が消えている。報償費の情報公開をめぐる裁判も、国が控訴したため今も続いており、黒塗りの下に何があるかは未だ明らかにしていない。「税金の使い道を公開せよ」。この、あまりにまっとうな司法判断に逆ら

う外務省は、美術品にかんする情報の開示もできるかぎり拒もうとする姿勢を変えようとしていない。

昨年九月、鈴木宗男衆議院議員（新党大地）が美術品リストの開示を求めたところ外務省が「存在しない」と強弁して拒否、鈴木議員は情報公開請求によってリストを入手した。一般市民が請求すれば開示する文書を、「ウソ」までついてなぜ国会議員に隠すのか。

こうした仕打ちが鈴木議員に対するものだけなら、あるいは外務省と鈴木議員の対立のためと思われるかもしれない。だが、前田議員の資料要求にも、外務省は一部しか応じていない（五月二二日現在）。

高橋氏の言うように、やましいことがないなら何も隠し立てすることはないはずだ。逆に、ここまで事実を隠そうとするからには、何かある。

と思わざるを得ないではないか。多数の質問主意書で「外務省の闇」に迫る鈴木議員は、こう話す。

「なくなつた美術品がどこに行つたのか、外務省には説明責任がある。大使を辞めるとき絵を持っていったものがいて、外務省が返還命令を出した、という話も聞いた。国の財産を自分のモノと勘違いしている大使がいるとしたらもつてのほかだ」

また「お役所の無駄遣い」に切り込む前田議員は語る。

「日本文化を海外に伝えることは大切です。ただ、そのためには広報文化戦略を強化しなければならぬ。適正な美術品を選ぶ第三者委員会を設置してはどうか。官僚が勝手に秘密にカネを使えると、必ず不正が起きる。北欧の大使館で、大使が離任する際、美術品を含めた大使館の備品を勝手にガレージセールで売り払

い、外務省が慌てて買い戻したことがある、という話も聞きました」

外務省の実情に詳しい国会議員らが異口同音に指摘する美術品私物化疑惑は、現時点では真偽はわからない。ただ、一つはつきりしているのは、外務省が事実を隠そうとする限り、美術品紛失疑惑が決して拭き

れない、ということだ。

村田さん（前出）はこう嘆く。「日本大使館には現代性のある作品がほとんどない。古い作品もいろいろいいけど、名前や勲章で選んでいるんじゃないか。この国では美術はカネに替わるだけで、真に価値が認められず大切にされないから、どこかになくなってしまふんですよ」

……
きた けんいち・ジャーナリスト。共著に「アメリカの日本改造計画」（イースト・プレス）など。

史的検証 竹島・独島

たけしま ひとと
内藤正中・金柄烈

新史料を含め、史料を丹念に読み返し、近世から現代に至る竹島（独島）の歴史に即して論点を検証する。日韓の歴史家二人による試み。 A5判 定価2310円

鳥のように

—シベリア 記憶の大地—

宮崎 進

画・オブジェと詩文で刻む「シベリア、死の家の記憶」。画家はここで人を生かす力の根源に触れ、創作の原点と出会った。 [カラー図版27点] A5判 定価2415円

岩波新書

沖縄密約

—「情報犯罪」と日米同盟—

西山太吉 「事件」から35年——豊富な資料をもとにその全体像を描く。 定価735円

ウェブ社会をどう生きるか

西垣 通 情報の洪水に呑み込まれないために、何が必要なのか。 定価735円

親米と反米

—戦後日本の政治的無意識—

吉見俊哉 われわれの内なる存在としての「アメリカ」を問う。 定価819円

少子社会日本

—もうひとつの格差のゆくえ—

山田昌弘 若者が直面する〈経済〉と〈恋愛〉の大変化とは。 定価777円

岩波ブックレット

非正規労働の向かう先

鴨 桃代 定価504円

介護情報Q&A

小竹雅子 定価735円

放課後の居場所を考える

—学童保育と「放課後子どもプラン」—

下浦忠治 定価504円



岩波書店

〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5
http://www.iwanami.co.jp/ (定価は消費税5%込み)